

第4章 丹波市の将来像と計画目標

4-1 丹波市の将来像

2050年ゼロカーボンシティ実現に向けた、丹波市の目指すべき将来像を次のように設定します。

ゼロカーボンで彩る丹（まごころ）の里 豊かなくらしを子や孫へ

『ゼロカーボンで彩る』

ゼロカーボンシティの実現によって、より魅力的で、さらにかがやく「丹（まごころ）の里」に発展することを示しています。

『丹（まごころ）の里』

あいさつや相手を思いやる気持ちに込められる“まごころ”が、こどもたちに引き継がれ、お互いに支えあうまちをつくります。

人のやさしさや緑豊かな自然などが守られ、ふるさとへの愛着や誇りが育まれるまちをつくります。

（第3次総合計画より）

『豊かなくらしを子や孫へ』

市民や事業者、行政などの多様な主体と連携した丹波市らしい環境の創造がゼロカーボンシティを実現し、ふるさとの環境を守りつつ、持続可能な豊かなくらしを享受します。それらを子や孫によりよい形でつないでいきます。

表 4-1 2050 年丹波市の未来社会イメージ

部門・分野	未来社会イメージ
共通	・脱炭素ライフスタイルが普及・定着 ・再エネ導入等により、電力の脱炭素化（CO₂ 排出量ゼロの電気）が実現 ・自立・分散型電源が普及し、災害に強く環境負荷の小さい地域づくりが実現 ・生物多様性の保全により、生態系サービスが維持され、気候変動の影響を緩和
産業	・製造業は省エネ化や燃料転換、生産効率が大幅に向上 ・工場屋根・屋上、側壁、駐車場に太陽光発電設備が普及 ・農業、林業、建設業は、スマート化が進行し、高効率機器が普及
業務その他	・建物は ZEB 基準に適合 ・建物屋根・屋上、側壁、駐車場に太陽光発電設備が普及 ・省エネ設備や高効率機器が普及
家庭	・住宅は ZEH 基準に適合 ・住宅屋根・屋上、側壁、駐車場に太陽光発電設備が普及 ・省エネ設備や省エネ家電が普及
運輸	・EV などの次世代自動車が普及 ・急速充電設備など、環境整備が進展 ・利便性の高い公共交通の実現
廃棄物	・循環経済の実現（循環型社会の形成と経済成長） ・バイオマスプラスチックの普及
吸収源	・森林整備、木材利用の活発化など、森林吸収源対策が進展 ・施肥やバイオ炭の施用による農地土壌吸収源対策が進展

図 4-1 2050 年ゼロカーボンシティを達成した丹波市のイメージ

※ゼロカーボンを達成した丹波市の未来イメージ図
※（作成中）